

**FDK**

第86期 中間報告書

平成26年4月1日から平成26年9月30日まで

**FDK株式会社**

# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第86期中間期（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境につきましては、世界経済のけん引役であった新興国の成長鈍化、ウクライナ・中東情勢の不安定さや円安による原材料・燃料価格の高止まりに加え、期後半には欧州市況が不安定となりました。さらに本年4月に国内で実施された消費税増税による駆け込み需要の反動や天候不順等による個人消費の落ち込みなど、景気の回復に停滞感が現れ、先行きが不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは事業拡大の施策として、電池事業においては6月にFUJITSUアルカリ乾電池シリーズならびにFUJITSU充電式電池シリーズの性能アップに伴ってデザインを一新し市場投入しました。リチウム電池については欧米において防災機器・セキュリティ用途ならびに車載用途向けで需要が旺盛であったため、生産・供給数量の拡大に注力いたしました。電子事業においても、ハイパワーインダクタ、低背タイプのパワーインダクタならびにDC-DCパワーモジュールの開発、量産化に取り組みしました。

当中間期の経営成績につきましては、売上高は液晶ディスプレイ用信号処理モジュールならびに市販用途向けニッケル水素電池の売上減により、前年同期に比べ37億35百万円減の355億72百万円となりました。損益面につきましては、電池事業における技術VEと購買コストダウンによる材料費削減が原価低減に大きく寄与したものの、電子事業における液晶ディスプレイ用信号処理モジュールなどの大幅な売上減による損失が大きく、営業利益は前年同期に比べ5億93百万円減の4億55百万円となりました。経常利益は前年同期に比べ5億65百万円減の4億19百万円、中間純利益は前年同期に比べ33百万円減の4億51百万円となりました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありまして、誠に遺憾ではございますが、見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫言申し上げます。

下期以降につきましては、電池事業において第3四半期が最需要期になります。上期に市場投入したFUJITSUアルカリ乾電池シリーズならびにFUJITSU充電式電池シリーズをグローバルに展開することなどにより国内外で売上の拡大を図ってまいります。さらに、防災機器・セキュリティ用途、車載用途などで需要が旺盛なりチウム電池についてさらなる拡販を行なうとともに、今後期待される薄形リチウム電池の新規用途開発に取り組みます。

また、電子事業については、電気化学技術、素材技術をはじめとした当社グループが保有するさまざまな技術を活かし、エネルギー・マネジメント分野で求められている高効率な電子部品を開発・供給することにより事業価値の向上を推し進めてまいります。

これらの成長の施策と収益基盤のさらなる強化に向けた各施策を実行することにより確実に成果に結びつけてまいります。

また、このたび当社は、連結子会社であるFDKトワイセル株式会社を、当社を存続会社として本年12月に吸収合併することを決定いたしました。FDKトワイセル株式会社はニッケル水素電池およびパック電池の開発、製造会社であり、両社の経営資源の相互活用による効率化、同社が保有する電池と当社の保有する電子部品との複合製品の開発スピード向上によるビジネスの一層の強化を図ってまいります。さらには、マイクロウェーブ事業の売却をはじめとした事業の選択と集中など企業価値向上の施策を進めることにより、事業環境の変化に柔軟に対応してまいります。

FDKグループはこれからも材料、素材の持つ無限の潜在力を引き出し、グループ全体の技術を結集して安心で安全な価値ある製品をお客様にご提供し続けることにより、“様々なかたちで社会に貢献できるエネルギー・マネジメントメーカー”を目指してまいります。

今後とも引き続きFDKグループをご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成26年12月



代表取締役社長

望月通正

# 事業別の概況

## ■売上概況

### ●電池事業

アルカリ乾電池は、国内外で前期に獲得した新規顧客ならびに既存顧客への供給数量拡大により、前年同期を上回りました。ニッケル水素電池は、車載などの工業用途向けが増加したものの、市販用途向けが国内外で減少したことから前年同期を下回りました。リチウム電池は、欧米で防災機器・セキュリティ用途ならびに車載用途向けの需要が旺盛で供給数量が拡大したことから、前年同期を上回りました。

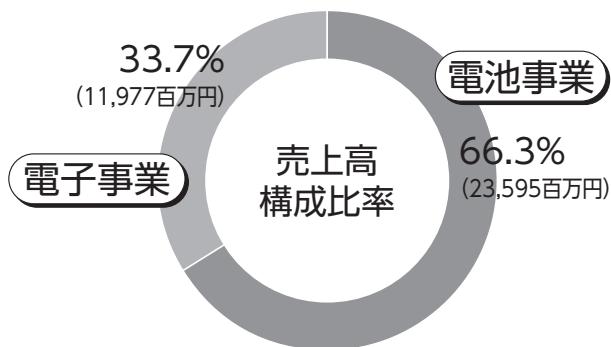
その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ4億31百万円減の235億95百万円となりました。

### ●電子事業

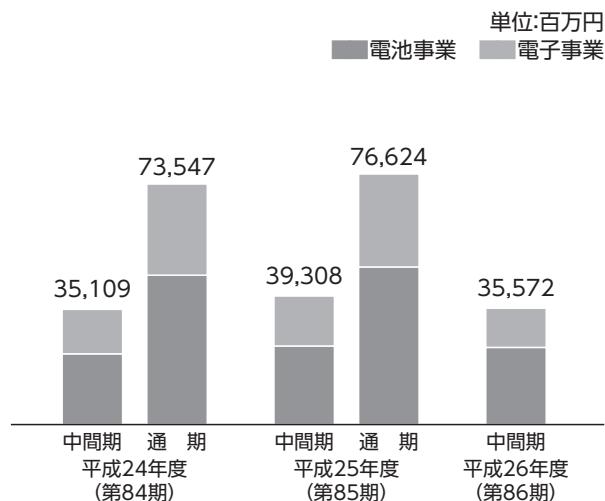
コイルデバイスは、民生・産業機器用途ならびにハイブリッド車用途向けともに堅調に推移し、前年同期を上回りました。液晶ディスプレイ用信号処理モジュールは、大型液晶TV用途ならびにネットブック用途向けなどの大幅な売上減により、前年同期を大きく下回りました。セラミックス部品は、デジタルカメラ市場の低迷などにより、前年同期を下回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ33億4百万円減の119億77百万円となりました。

## ■売上高構成比率



## ■売上高



# 連結財務諸表

## ■中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (平成26年9月30日現在)	前期末 (平成26年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
I 流動資産	33,952	32,651
II 固定資産	22,521	22,642
(有形固定資産)	18,073	17,687
(無形固定資産)	614	677
(投資その他の資産)	3,833	4,278
<b>資産合計</b>	<b>56,473</b>	<b>55,294</b>
<b>負債の部</b>		
I 流動負債	38,541	38,405
II 固定負債	9,928	10,380
<b>負債合計</b>	<b>48,469</b>	<b>48,786</b>
<b>純資産の部</b>		
I 株主資本	8,459	8,174
資本金	28,301	28,301
資本剰余金	22,622	22,622
利益剰余金	△42,420	△42,706
自己株式	△43	△42
II その他の包括利益累計額	△1,117	△2,290
その他有価証券評価差額金	30	26
為替換算調整勘定	1,507	341
退職給付に係る調整累計額	△2,655	△2,658
III 少数株主持分	661	624
<b>純資産合計</b>	<b>8,003</b>	<b>6,508</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>56,473</b>	<b>55,294</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しております。

## ■中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	前中間期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
売上高	35,572	39,308
売上原価	29,484	32,947
売上総利益	6,088	6,360
販売費及び一般管理費	5,633	5,311
営業利益	455	1,049
営業外収益	701	645
営業外費用	737	709
経常利益	419	985
特別利益	217	83
特別損失	—	304
税金等調整前中間純利益	637	763
法人税、住民税及び事業税	129	196
法人税等調整額	46	95
少数株主損益調整前中間純利益	462	471
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	11	△13
<b>中間純利益</b>	<b>451</b>	<b>484</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しております。

## ■中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	前中間期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,413	3,593
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△810	△1,981
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△650	△1,604
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	275	176
V 現金及び現金同等物の増減額	227	183
VI 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△532
VII 現金及び現金同等物の期首残高	5,029	5,297
VIII 現金及び現金同等物の中間期末残高	5,256	4,949

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てにより表示しております。

# トピックス

## ◎FUJITSU電池5シリーズ、6月に発売



当社は、漏液防止性能などを向上させた富士通アルカリ乾電池「Premium・HighPower・LongLife」、電池容量および充電サイクル回数を引き上げた富士通ニッケル水素充電電池「高容量タイプ・スタンダードタイプ」計5シリーズについて、デザインを一新して発売いたしました。

私たちの身の回りにはさまざまな機器があり、その機器に使用される電池には、乾電池のほか繰り返し使える充電電池も普及しており、お客様の好みに応じて電池が選ばれる傾向にあります。今後も、当社はこのような市場トレンドを捉え、多様化する生活シーンに最適な乾電池・充電電池を分かりやすくご提案してまいります。

## ◎大電流対応、次世代型「ハイパワーインダクタ」開発



当社は、当社従来製品と同等のサイズを維持しながら、大電流対応化と低抵抗化を実現した次世代型「ハイパワーインダクタ “MCPシリーズ”」を開発いたしました。

近年、モバイル機器では高機能、多機能化が進み、電源回路用に使用されるパワーインダクタには、『高い定格電流』、『低損失』、『小型・薄型化』など多くのニーズが求められております。

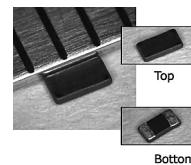
本製品は、独自の「フェライト材料技術」、「磁気回路設計技術」および「プロセス技術」によりフェライト材料の持つ優れた電磁変換効率を引き出し、直流重畳特性と高周波領域の低抵抗化を実現しました。

## ◎超小型・超低背「パワーインダクタ」を開発

当社は、当社従来製品に比べて高さ比で約40%ダウンの小型・低背化を実現した超小型・超低背タイプの「パワーインダクタ “MIPSKZ1608G”」を開発いたしました。

近年、モバイル機器では『高機能・多機能化』に伴い部品員数の増加が進み、各部品あたりの実装スペースが小さくなり受動部品の“小型化・薄型化”ニーズが増加しております。また、モバイル機器の高機能・多機能化に伴う電池の効率的な使用に有効なコンバータ回路の採用も増加しております。

本製品は、独自の「フェライト材料技術」、「ファイン印刷技術」に加え、従来製品と異なりLGA (Land Grid Array Package) 構造を採用することにより、小型・低背化を実現し、ウェアラブル端末などでも搭載可能です。



## ◎FDKトワイセル株式会社を吸収合併

当社は、9月12日の取締役会において、当社の100%出資子会社でニッケル水素電池およびこれらを応用したパック電池の開発、製造を行なうFDKトワイセル株式会社（群馬県高崎市）を当社を存続会社として12月1日付で吸収合併することを決議いたしました。

経営資源の相互活用による効率化およびニッケル水素電池と電子部品の複合製品の開発連携向上によるビジネスの一層の強化を図ってまいります。



# FDKグループの概要 平成26年12月1日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

## FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [ ] 内は、主要生産品目です。

### ●当 社

◆東京都港区新橋五丁目36番11号

#### 工 場

- A 湖西工場 [トナー、高周波積層部品]
- B 山陽工場 [セラミックス部品、積層チップパワーインダクタ、コイルデバイス]
- C 高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

#### 営 業 所

- ① 札幌営業所
- ② 仙台営業所
- ③ 首都圏営業所
- ④ 名古屋営業所
- ⑤ 大阪営業所
- ⑥ 広島営業所
- ⑦ 福岡営業所

### ●当社グループ

#### 国内生産会社

- 1 FDKエナジー(株) [アルカリ乾電池、リチウム電池]
- 2 FDK鳥取(株) [リチウム電池]
- 3 旭化成FDKエナジーデバイス(株) [リチウムイオンキャパシタ]
- 4 (株)FDKエンジニアリング [各種製造設備]

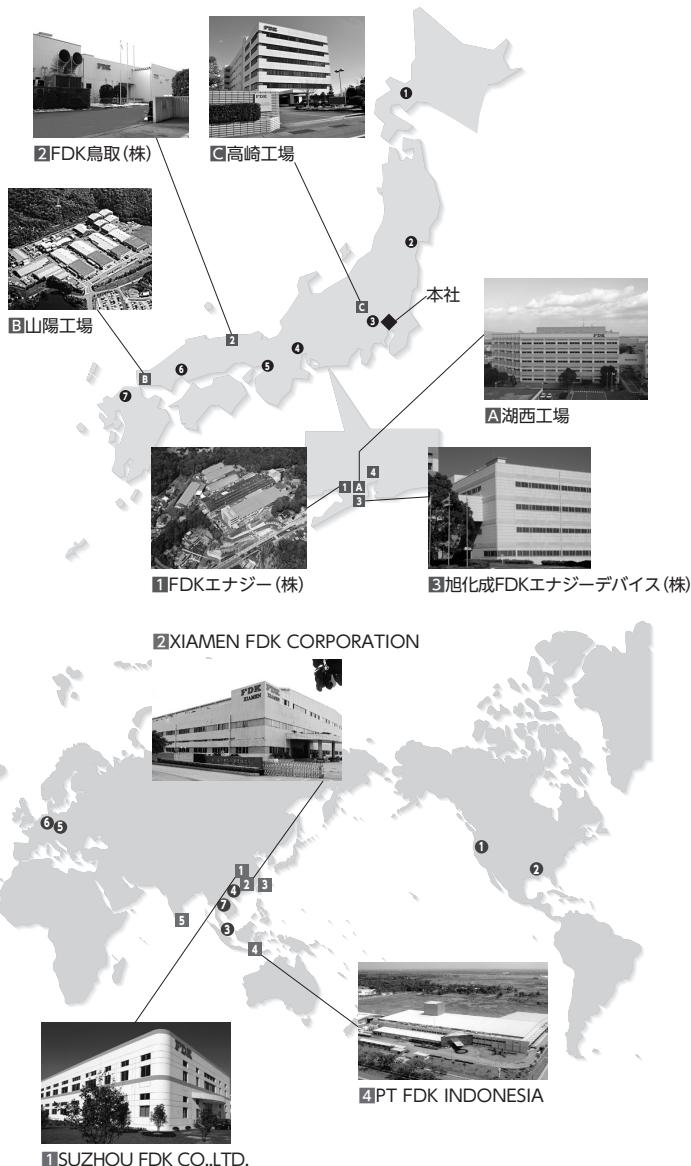
#### 海外生産会社

- 1 SUZHOU FDK CO., LTD.  
中国・蘇州 [液晶ディスプレイ用信号処理モジュール]
- 2 XIAMEN FDK CORPORATION  
中国・廈門 [スイッチング電源、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール]  
[ニッケル水素電池・リチウム電池のバック電池]
- 3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.  
台湾・桃園 [液晶ディスプレイ用信号処理モジュール、DC-DCコンバータ]
- 4 PT FDK INDONESIA  
インドネシア・プカシ [アルカリ乾電池、リチウム電池]
- 5 FDK LANKA (PVT) LTD.  
スリランカ・カツナヤケ [光通信部品、コイルデバイス]

#### 海外販売会社

- FDK AMERICA, INC.
- ① 米国・サニーベール
- ② 米国・ダラス
- FDK SINGAPORE PTE. LTD.
- ③ シンガポール
- FDK HONG KONG LTD.
- ④ 中国・香港
- FDK ELECTRONICS GMBH
- ⑤ ドイツ・ミュンヘン
- ⑥ ドイツ・デュッセルドルフ
- FDK (THAILAND) CO., LTD.
- ⑦ タイ・バンコク

(ほか、連結子会社2社、持分法適用関連会社1社)



# 会社および株式の概要 平成26年9月30日現在

- 商号 **FDK株式会社**  
(英文社名：FDK CORPORATION)
- 設立 昭和25年（1950年）2月7日
- 資本金 28,301,221,513円
- 従業員数 831名 [FDKグループ：4,968名]
- 主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、リチウムイオンキャパシタ、各種強力ライト、電池製造設備

電子事業 スイッチング電源、コイルデバイス、DC-DCコンバータ、積層チップパワーインダクタ、セラミックス部品、トナー、光通信用部品、高周波積層部品、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

## ■役員 ●取締役・監査役

地 位	氏 名
代表取締役社長	望 月 道 正
取 締 役	川 崎 健 司
取 締 役	宮 崎 徳 之
取 締 役	広 瀬 陽 一
取 締 役	松 島 等
常 勤 監 査 役	野 島 聡
常 勤 監 査 役	須 藤 純 司
監 査 役	白 倉 三 徳

- (注) 1. 取締役広瀬陽一氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役野島 聡および白倉三徳の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## ■所有者別株式数分布状況



## ■発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普通株式	510,000,000株
優先株式	30,000,000株
合 計	540,000,000株

## ■発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数（前期末比）
普通株式	280,363,026株	13,083名（819名減）

## ■大株主

株 主 名	当社への出資状況		
	持株数(千株)		持株比率(%)
富士通株式会社	普通株式	202,954	72.45
富士電機株式会社	普通株式	3,395	1.21
株式会社SBI証券	普通株式	1,312	0.47
第一金属工業株式会社	普通株式	1,282	0.46
大和証券株式会社	普通株式	1,114	0.40
日本証券金融株式会社	普通株式	1,052	0.38
岩井コスモ証券株式会社	普通株式	992	0.35
松井証券株式会社	普通株式	869	0.31
岡三証券株式会社	普通株式	842	0.30
FDK取引先持株会	普通株式	830	0.30

- (注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨ててにより表示しております。
2. 持株比率は、自己株式（246,204株）を控除して計算しております。

# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
議決権の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告 当社は公告を下記ホームページに掲載しております。 <a href="http://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html">http://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先につきましては、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 単元未満株式の買取 請求制度のご案内

当社株式の証券市場での取引は1,000株単位となっており、1,000株未満の単元未満株式は、市場で売却することができない、株主総会における議決権がない等の一定の制限がございます。

単元未満株式をご所有の株主様は、当社に対して、単元未満株式の買い取りをご請求できます。当社株式を証券会社等の一般口座でご所有の場合はお取引の証券会社等に、特別口座でご所有の場合は三井住友信託銀行株式会社 (☎0120-782-031)にお問い合わせください。

### 単元未満株式の買取請求制度って？

単元未満株式をご所有の株主様が、単元未満株式の売却をご希望の場合に、当社が市場価格で買い取らせていただく制度です。

## 当社ホームページについて

その他 IR情報もホームページに掲載しております。  
是非ご参照ください。

当社ホームページ

<http://www.fdk.co.jp/>

当社 IR 情報

<http://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>



当社ホームページ



当社 IR 情報